

防災、福祉、環境、教育、町づくりなど 市民の切実な要求取り上げて全力

9月9日～30日まで9月定例会市議会が開会されました。
5人の市会議員団は、全員が本会議に登壇し、11項目にわたり
一般質問をおこない、また委員会でも活発な論戦を展開しました。

日本共産党市議会報告

2011年9月議会特集

中筋日延児童遊園の約530万円支払い の「和解案」が反対多数で否決される

1973年に宅地造成にともなう公園として市に寄付の申し入れがあり、36年間市の公園として管理してきた土地を市が登記しなかったため第三者にわたり、登記簿上の現所有者から遊具の撤去など公園の明け渡しを求められました。市は相手側からの調停に応じて和解金を支払い買い取ることを提案。党議員団は、こういう不当な申し入れに対しては毅然として対応すべきと反対しました。この議案は、民主クラブの1名を除く全員が反対したため、否決されました。



問題になっている
中筋日延児童遊園

党議員団は17件の議案中3件に反対 しました

給食の民間委託などを含む補正予算、その他に市税条例の一部を改正する条例について、たばこ税の未申告に対する過料の引き上げが3万円から10万円と一挙に高くすることや、株式配当に対する課税を20%から10%と減額する大金持ち減税を2年間延長するものなどに反対しました。

裏面に各議員一般質問要旨を掲載

奥谷和夫奈良県山添村議迎えて 「産廃問題」学習会開く

日本共産党和歌山県議団と同市会議員団は、9月24日奥谷和夫奈良県山添村村会議員を招いて、「産廃問題学習会」を有功自治会館で開催しました。

講師の奥谷氏は、奈良県の産廃処分場の例を具体的に紹介しながら、「安定型」の処分場と言うが実際に住民が掘り返してみたら、木くずや注射針、点滴の袋などが投棄されるなど決して安全と言うことではなく、これは環境省も認めていることだと奈良県の例を紹介しました。特に周辺住民は強烈な異臭に悩まされていることを紹介すると、会場からどよめきが起こりました。

その上で奥谷氏は、滝畑・山口地区の産廃処分場計画問題で大事なのは、法律も含めてよく学ぶこと、そして住民に知らせ、運動と世論が決定的だと述べました。

参加者から、訪問の中で「産廃はどこかで処分せざるを得ないのではないか」と質問されたことが紹介され、奥谷氏は、企業が生産の段階でゴミをださないようなシステムを構築していくことの重要性を強調しました。この学習会には奥村規子県会議員、森下佐知子市議、南畑幸代市議があいさつと報告をし、渡辺忠広市議、松坂みち子市議も参加しました。



講演する日本共産党
奈良県山添村議
奥谷和夫氏



森下さち子

- 建設企業委員会
- 地震対策特別委員会



ひめだ高宏

- 経済文教委員会



南畑さち代

- 総務委員会
- 環境保全対策特別委員会



渡辺忠広

- 総務委員会
- 環境保全対策特別委員会



松坂みち子

- 厚生委員会
- 地震対策特別委員会

このニュースに対するご意見・ご要望などありましたら、お寄せください。
また生活相談も、ご遠慮なく連絡ください。

日本共産党市議会だより 2011年10月

日本共産党和歌山市議員団 TEL 435-1113
FAX 421-4181 ホームページ <http://jcpwkm.sakura.ne.jp/>

防災無線強化と消防職員の増員を

震災ボランティアとして岩手県陸前高田市で活動してきた姫田議員は、現地で聞いた地震直後に停電して「防災無線がただひとつの情報源だった」という状況を紹介し、「和歌山市で防災無線が津波避難対象地域のすべての家に聞こえるのかどうかはつきりさせる必要がある」「聴覚障害者への避難勧告の周知をどうするのか」「防災無線が聞こえない家には、個別受信機の貸与をすすめるべきだ」と迫りました。

池永危機管理監はそれぞれについて、検討、研究を約束しました。消防職員の増員について市長は、「適正な確保に努める」と答弁しました。



ひめだ高宏議員

産業廃棄物最終処分場について

南畑議員は、建設予定地になっている山口連合自治会長から市長に「建設反対」との要望書が出されていること、日本弁護士連合会が安定型の産業廃棄物最終処分場の建設について許可しないように求める意見書を国に出しているが、その認識について質問しました。また許可取消処分を受けている紀ノ川産業が廃プラスチックを野ざらし状態で放置していることを示して、市長にトラブルが発生している事例について先頭に行き、調査すべきでないかと質問しました。市長は、住民からの要望書について、「内容については十分理解している。事業者に対して住民の意見や要望に応えるよう指導する」こと、日本弁士連合会の意見書については、「安定型処分場での硫化ガス事故など完全な分別が困難であることへの警鐘ならしたものと受け止めている」と述べました。さらに「私自身時間やチャンスを見て調査に行きたい」と答弁しました。南畑議員は、介護保険問題についても質問し、介護保険料問題などを中心に取り上げました。



南畑さち代議員

障害者福祉や景観についてもとりあげる

聴覚障害者に対する手話通訳派遣事業について、きめ細かい対応を求めると共に、市民会館への磁気ループの設置を求めました。また景観問題に関連して、秋葉山と和歌川の整備について市に対応をもとめました。

放射能汚染の市民不安の解消を

松坂市議は、原発事故により大量かつ広範囲に放射性物質が放出され、国民の放射能への不安が広がっていることを指摘し、また、放射能に汚染された稲わらを食べた牛の肉が和歌山市にも流通し、不安の声が上がっていることから、放射能汚染に対する市民の声を取り除くための取り組みをたどりました。



松坂みち子議員

永井保健福祉局長は、食品について、「近隣自治体との情報交換を緊密にし、迅速に対応したい」と答弁しました。

小中一貫校問題や平和問題について

伏虎中学校区において小中一貫校の計画があるが、市民に内容が伝わらず戸惑いがあるのではないかと。東京品川区では実施後、いじめ・不登校が増え、発達心理学上からも9学年が同居するのは無理があるのではないかと指摘があるとたどりました。また広島平和バスの定員を増やすよう、原爆写真展は市民参加で取り組むよう求めました。

産業廃棄物最終処分場計画に関して

渡辺市議は市長に対して、山口地区・滝畑に計画されている産廃最終処分場建設計画を不許可とするよう要請し、以下の点を取り上げました。



渡辺忠広議員

和歌山市所有の野池の埋立は、農業用水として水利権を持つ農家の同意を必要とすること、また水利権の放棄は稲などの農業を放棄することとなること、また水路や路肩などは全ての受益者の同意を必要としていること等を明らかにさせました。また、「安定型産廃処分場」とはいえ、環境省は、石綿や水銀、鉛、六価クロム、ヒ素化合物など8種類の環境汚染物質の埋立も量規制はあるものの、混入を一部を容認していることを明らかにし、市が産廃処分場建設に同意することは、環境破壊を容認することとなることを指摘し不許可とするよう訴えました。さらに、「このままの生活環境を子孫の代まで守り続けること」の大切さを訴えました。

大橋市長は、事業者に必要な管理運営をもとめ、許可については慎重に対応していくと述べました。

まちづくりについて

鳴神に建設が予定されている「コーナン」の出店にかかわって、住民からどんな意見が寄せられているのか。市は住民の意見を踏まえて、県にどのような意見をあげようとしているのかについて質問しました。また周辺の生活環境に及ぼす影響について、配慮すべき指針や市が設置者に対して規制できる点は何か質問しました。



森下さち子議員

東まちづくり局長は住民の要望は、遮音壁及び防塵壁の設置の声であるとのべ、交通環境対策と共に県に意見をあげたいと述べました。

騒音規制法、振動規制法、県公害防止条例など基準値を超えた場合は、設置者に直接指導をおこなうと述べました。

岡崎団地の再編計画について

森下議員は、今回岡崎団地の再編計画を策定した目的について、また進めていく具体的なタイムスケジュール、住民参加についてはどうするのか質問しました。

大橋市長は建物の老朽化と居住者の高齢化に対応するために、バリアフリー化の対応が求められており、団地の中高層化は2016年以降となると述べました。